

The TENDAI journal

令和4(2022)年12月1日 木曜日
(毎月1日発行) 1部 50円 (消費税込・送料別)

天台ジャーナル

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 小林 祖承
〒520-0113 大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

広報天台



一人ひとりにおかみそりと仏舎利が授けられた

東海教区(山田亮盛宗務所長)は11月5日、北名古屋市の高田寺(柴田真成住職)を会所に特別授戒会を奉修した。菩薩戒を授かった127名が仏弟子として歩むことを誓った。

同教区での祖師先徳鑽仰大法会「特別授戒会」は、令和元年11月以来となる。

午前11時より説戒会が行われ、説戒師の村上圓竜常覺院住職や来賓、関係者らが一堂。奉行の山田宗務所長が挨拶で「授戒会とは生まれながらに持つ仏さまとの絆を自覚し、仏性を目覚めさせる意義ある儀式です」と戒弟らに説いた。また随行長の阿部昌宏天台宗宗務総長は「新しいスタートを切るという思いをもって授戒会に臨んで欲しい」と語り、小寺照依延暦寺副執行からは伝戒和上の堀澤祖門探題大僧正のご経歴などが紹介された。

続いて、説戒師の村上住職から授戒に当たった心の構えや諸作法について判りやすい言葉で伝授された。

休憩を挟んだあと、午前11時50分から正授戒会が開会。堀澤伝戒和上は伝教大師が中国で授かった十二門戒儀の一つひとつ順序立てて説示した。そして堀澤伝戒和上



東海教区 特別授戒会

仏性に目覚め
菩薩としての歩みを

戒弟にお言葉を述べられる堀澤伝戒和上

が戒弟全員に「おかみそり」を、仏舎利を羯磨師の柴田住職が授けた。

堀澤伝戒和上は「今日、菩薩戒を受けられ、お釈迦様の直弟子となられました。今日のこの時から菩薩になった気持ちで、自分のために生きるのではなく、周りの方々のために、生きている限り全力で働かせていただきますとの願いを持ち、これからの人生を過ごしてください」と励

まされた。

また柴田住職からは「伝教大師は、自分のことよりも人の幸せを願う菩薩が一人でも多く、日本国中に増えることを願われた。私たちは命を頂いたことに感謝し、その心で人のために尽くしていたきたい」と期待を寄せた。

なお教授師は延暦寺一山金台院の磯村良定住職が務めた。

極微

ごくみ

はや師走だが、振り返ると今年も頻繁に「線状降水帯」という言葉に出会った。「次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50〜300km程度、幅20〜50km程度の強い降水をとまなう雨域」と気象の解説用語では説明している▼実際「線状降水帯」に襲われたところでは、わずか1日でその地の1カ月以上の降水量を記録するなど、猛烈な降り方をする。時には「数十年に一度」の豪雨と表現されるほどだ。過去にもたびたび大豪雨に襲われている我が国だが、近年、あまりに多く発生している気がする。このような状況に誰しも思うのが、地球温暖化による気候変動だ。日本だけでなく世界的にも異常気象による大きな水害や干ばつの被害が出ている▼異常さが激しい結果、被害の大きさに驚く。日本各地に発生する「線状降水帯」による被害状況をみると、再三にわたって襲われるパターンがある。先の被害から復興する前にまた豪雨に見舞われるのだ。被災地の方々の心中が思いやられる▼自然災害でも、そこに人間が引き起こした原因が加わることで被害が増大することは、許されない。これ以上の地球温暖化を阻むことは、未来の世代に対する責任でもある。